

カレンダー

令和六年

1月元旦～3日	……	新年祈祷法要
2月12日	……	松岩寺開山喜庵西堂和尚毎歳忌（開山和尚滅後四二六年）
15日	……	涅槃会
3月	……	春彼岸法要
4月8日	……	釈尊降誕絵（花まつり）
6月下旬	……	本山妙心寺新亡供養
8月1日～3日	……	施餓鬼受付
13日……盆迎え	15日……施餓鬼法要	16日……盆送り
9月 秋彼岸	……	秋彼岸法要
12月8日	……	成道会

○定例行事・催し物の紹介○

【坐禅会】 毎週日曜日 朝6時～7時

【写経】 第4土曜

午後1時30分～4時30分まで（8月は盆行事のため休会）

教養講座

もったいないをかたちに【開催中】

【金つぎ教室】 講師 花輪滋實

第4土曜日 午後1時半～午後4時半

霊園管理費納付のお願いは、春彼岸のご案内と一緒にお届けします



境内の北、旧中山道に面したところにある、伝道掲示板の令和6年正月に掲載することばを紹介しします。



blog版から

伝道掲示板には1ヶ月にひとつの言葉を紹介しています。経典の引用であったり、詩や小説のなかの言葉であったりします。道ばたの1メートル四方の掲示板ではお伝えできない、ことばの周辺は松岩寺ホームページのblogに載せています。

旧年の晩秋、ベランダのプランターに小松菜の種をまきました。数年前に購入した古い種だったからでしょうか。3週間たっても芽をだしません。あきらめてプランターをかたづけようとした朝、小さな双葉が顔をだしていました。有効期限が過ぎたお古だって、芽が出るんだ！蒔いてみなければ芽は生えない！！

正月のことばは井原西鶴（1649～93）の『世間胸算用』にあるせりふです。この物語は副題が「大晦日（おおつごもり）は一日千金」とあることからわかるように、大晦日の話です。それを正月のことばにするのは、ちょっとね……ではあるのですが、種まきは新春にふさわしい。

そういえば、これによく似たことばが禅の書物にもあります。『臨濟録』という語録に次のようなエピソードが紹介されています。登場人物は臨濟義玄（？～866＝りんざい・ぎげん）と黄檗希運（？～856＝おうぼく・きうん）の二人、会話の場所はというと現在の地名でいえば、中国は江西省の黄檗山。現代語訳を『沖本克己仏教学論集』（山喜坊）から、丸借りします。

師（臨濟）が松を植えていると、黄檗が尋ねた、「こんな山奥にそんなものを植えてどうするつもりなんだ。師、「まあこの寺の境内の飾りになり、ついでに後人の目印になるかと」。

臨濟栽松（りんざいさいしょう）と呼ばれる有名な会話です。我が寺号、松岩寺の由来は、この問答にあると思われます。でも、緑化運動のスローガンじゃあるまいし、こんな会話が千年以上も生命を持ち続けたのは、何かあるはずだ。現代語訳してくれた、沖本克己先生は次のように謎解きをしてくれます。

「本当に松を植えていたのか、植木屋があるわけでもないから松の苗はどこから手に入れたのか、もともと深山には松は幾らも自生している。とすれば、単に苗を植え換えていたのか、あるいははびこる苗を間引いていたのか、そんなところだということになる。そして、どちらにしてもそれは境内の彩りにも目印にもならぬ、ほんとは無駄な作業でしかあるまい。バカバカしいことをしておる、（途中略）
敢えて無駄なことに精を出し続ける姿に将来を託し得る資質を見た」

コスバ（費用対効果）などとせちがらい言葉がのさばる今だけど、無駄と思われることに熱中する時空には、すがすがしい空気がながれているだろうか。そんな新しい年にしたい。

一月のことば

詩かぬ種は生えぬ

井原西鶴 『世間胸算用』より